

自治医科大学附属さいたま医療センター外科・心臓血管外科後期臨床研修プログラム

さいたま医療センター外科・心臓血管外科では、卒後2年間の臨床研修を終了した医師を対象にして、3年間の後期臨床研修プログラムを作成し、応募者を公募する。後期研修プログラムの基本的到達目標は、外科専門医資格の取得である。

1. 後期臨床研修医の対象とプログラムの目標

後期臨床研修医の対象となるのは、外科専門医資格取得をめざす医師であって、卒後初期臨床研修の2年を終了し、外科・心臓血管外科・呼吸器外科の臨床研修を希望するものとする。研修プログラム終了後は外科専門医として外科チームをリードし、患者から信頼を得て診療を担当できる臨床的能力を備えていることを目標とする。また、後進の医師や学生を指導できる教育能力についても養われていることを目標とする。したがって、研修医それぞれの事情によりプログラムの実施過程に変更はあるにしても研修プログラムを途中で放棄することなく、最後まで完了するための意志が必要である。研修終了時には、外科専門医受験資格を取得するに十分な臨床的経験を積んでいることがプログラム作成の前提となっている。

後期臨床研修プログラム終了後は、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科等、それぞれの専門医研修へ進むことが推奨される。

2. 研修期間と研修内容

研修期間は毎年4月ないし5月から開始し、原則として3年間とする。ただし、研修医のそれぞれの事情により(例えば留学、出産等)、研修期間の変更はあり得る。

研修内容については、日本外科学会の外科専門医修練カリキュラムに準じたものとする。ただし、さいたま医療センターのもつ特徴を考慮し、より実践的、効率的なカリキュラムをめざす。

各種手術については、術者または助手として、最低限次に示した手術数を経験するものとする。また、研修期間中に術者または助手として、手術手技を350例以上経験するものとし、そのうち術者は120例以上とする(いずれも日本外科学会の外科専門医修練カリキュラムに示された症例数)。

(各種手術)

- ①消化管および腹部臓器:50例 (70例*)
- ②乳腺:10例 (20例*)
- ③呼吸器:10例 (20例*)
- ④心臓・胸部大動脈:10例 (30例*)
- ⑤腹部大動脈・末梢血管:10例 (30例*)
- ⑥体表・内分泌外科:10例
- ⑦小児外科:10例(栃木の自治医科大学附属病院で行う)
- ⑧各臓器の外傷:10例
- ⑨鏡視下手術:10例 (20例*)

(*は各専門領域を選択した場合)

消化器一般外科シニアレジデントプログラム3年

- ①消化器一般外科 2-3 年（自治医科大学さいたま医療センターSMC, JMU） 関連病院での派遣研修
6ヶ月（東京北社会保険病院、同愛記念病院）
- ②心臓血管外科 3ヶ月（初期研修で履修未の場合のみ）（ SMC, JMU）
- ③呼吸器外科 3ヶ月（初期研修で履修未の場合のみ）（ SMC, JMU ）
- ④小児外科 1 ヶ月（県立埼玉小児医療センター）
- ⑤オプション
麻酔科, ICU（ SMC, JMU ）
外傷（災害医療センター）

呼吸器外科研修プログラム

1年目

大学病院・附属さいたま医療センターにおいて外科ローテートコースとして、呼吸器のみならず一般消化器、心臓血管、小児外科を3ヵ月間ごとに研修する。

2-4年目

消化器外科を中心とした外科一般診療1年間を学ぶ。

大学病院や関連病院において、呼吸器外科診療を2年間学ぶ。

呼吸器内科3ヶ月間履修する。

外科認定医を取得する。

学会発表や症例報告論文も積極的に取り組んでいく。

5-6年目

呼吸器外科診療を体得し呼吸器外科専門医、呼吸器内視鏡認定医、日本呼吸器病学会認定医(外科系)を取得する。内1年間は国内外問わずリサーチトレーニングを行う。

希望者は大学院博士課程へ進学する。